

議事録

会議名：第36回中四国学生剣道連盟理事会 書面による理事会

意見募集開始日平成23年1月10日
意見募集締切日平成23年1月31日
議決要請送信日平成23年2月3日
議決締切日平成23年2月7日

- 構成員：35名
- 参加者：湯村正仁、渡邊道德、小倉 肇、藤原崇郎、木原資裕、榊 康守、福井悦郎、大城戸 功、草間益良夫、村井慎治、山神真一、石井博貞、境 英俊、香川直己、竹内善一、廣畑栄三、宮本理幸、矢野宏光、月本翔太、小原啓示、工藤圭司、明石靖子、近藤秀俊、菱川創太、香川修慶、上田祥平、上田晴加、太田浩貴、山村 彩、吉田幸平、坪内昭紘、高橋琴美、大野泰史、比田勝康至、松木佑輔 以上35名オブザーバーとして、近藤裕樹

上記の通り、全体の3分の2以上の出席があった為、本会議は適法に成立した。今回は持ち回り理事会として幹事長が文章の送信等に当たった。

● 記 録

氏名：月本翔太

E-mail：[REDACTED]（不明点はこちらへ）

Summary：

議題1：平成25年以降のオープン大会開催の方針について

議題2：その他

議事

1. 平成25年以降のオープン大会開催の方針について

報告者：月本翔太

先ず、来たる平成23年2月11日に行われます第1回全日本学生剣道連盟理事会・常任理事会において、去る平成22年12月11日の理事会で議題にあがりました平成25年以降のオープン大会開催の方針について、中四国連盟の御意見を報告したい旨発言があり、次の通り、先輩理事の方々に平成25年以降の方針について御意見を頂いた。

- 前回の理事会の際に考えたことですが、毎年の開催となると、中四国でも4年に1回の開催となります。会場の確保が困難です。今まで通りの2年に1回の開催を強く望みます。
また、段位による区分を明確にしていきたい。

b. 12月11日での理事会通り、「中四国としては平成25年のオープン大会は引き受けるが、そのあと4年ごとに引き受けるかどうかは未定である。H.25の結果を見て検討させてほしい。他の地区と異なり、中四国は瀬戸内海を挟んで広範囲にわたっており、実施には多くの問題点を持っている。」

c. 中四国学連では平成10年よりチャレンジカップとして、これまで選手として試合に出ていない者を対象とした大会を実施しており、今年で第14回大会となります。つまり、全日本オープン大会の趣旨である「これまで選手として大会出場経験のない学生に出場できる大会の場を与える」ことに中四国では13年前より対処していたこととなります。

よって、全日学連のオープン大会開催そのものに、中四国学連では必要がないとの立場にありました。当然、平成25年に中四国でオープン大会を実施することは中四国理事会では慎重論が多数を占めておりましたが、北海道が実施することを考慮し、中四国会長の英断でやっとお受けするに至った経緯があります。

しかし、それをいきなり、平成26年度より毎年開催とし、中四国で四年に一度の定期開催となることは、中四理事会の賛同を得る状況ではありません。

できれば、平成25年の後は、従来の北信越・東北の二年ごと開催にもどしていただき、中四国でも四年に一度の定期開催をしたいという気運が高まるまで待っていただきたい。平成25年度中四国でのオープン大会が終了していない現時点での、オープン大会毎年開催(中四国が四年に一度開催)案は、中四国として承服できないと言わざるを得ません。

d. 意見としては、25年以降四年ごとに回ってくることとなりますが、広島県と他県で開催可能な県を選び交互に開催できれば負担を分かちあえると思います。ただし、初回は大変なご苦勞があると思います。どちらにしても決まったらみんなで協力しながら進める以外ありません。

e. オープン大会についての意見ですが、新人戦の折にも発言しましたが、4年に1回の開催には反対です。すでに決まった事項のようですが、中四理事会での検討がなされておらず、そのまま受け入れることには無理があります。

反対の理由としては、連盟の負担が一番です。会場の確保、審判員の確保、日程調整等様々な問題があると思います。その他発言内容については、新人戦の議事録を確認して下さい。

f. オープン大会について毎年開催をする場合、中四学連で1度行った上で検討するべきです。今までのオープン大会には関西、九州、中四国も殆ど参加していない状況でどれほどの人数が参加するかが未知数です。西日本では西日本大会が開催されていて、今年からは大学の混成チームでの参加が出来るようになり、より参加しやすくなり、その半年後の大会に選手が集まるだろうか？一度、九州及び関西の大学にアンケートを呼びかけたが反応が薄かった(今の学生にとっては現実味がない)。

現在、全日本学生剣道連盟からの資金が100万円出ているが、今後、選手権・優勝大会の毎日新聞社からの100万円も出るかどうか分からない状況で、毎年100～150万円を大会会計に計上出来るのか財務委員会への確認作業が取れていない。

参加者がもし1000人規模を予定するのであれば、広島・愛媛(10試合場)での開催しかなく、800人程度に絞るのであれば、岡山・高松(8試合場)での開催も検討できる。試合形式も3人又は4人のリーグ予選ではなく、全部トーナメント形式であれば1000人規模でも岡山・高松(8試合場)での開催も可能と考えられる。今まで開催した地域は、金沢市・長野市・仙台市・塩竈市であって、何れも中四・九州ともに参加人数が少なく、関西もさほど多くない状況である。まして、今後、札幌市・広島市・仙台市・新潟市・札幌市の次に広島市といわれても、西日本のデータが無い状況では、毎年開催は時期尚早です。

私としては広島・愛媛・岡山・高松の4箇所での開催を前提とした大会で、参加費や大会費用もあらためて検討したいので、一度現状の要項で広島開催をした後で毎年開催を検討すべきです。

g. 1)オープン大会の基本理念がまず、まだ理解できておりません。何の為の、何を目的の大会なのか。毎年、行うことのメリットは何なのか？一部学生の就職履歴書記入の為の大会などもってのほかです。

